



日乗連ニュース

ALPA Japan NEWS

www.alpajapan.org

Date 2005.06.28

No. 28 - 37

発行: 日本乗員組合連絡会議・ALPA Japan
幹事会
〒144-0043
東京都大田区羽田5-11-4
フェニックスビル
TEL.03-5705-2770
FAX.03-5705-3274
E-mail:office@alpajapan.org

IFALPA INDUSTRIAL Committee Meeting in Ottawa, Canada

初めての IFALPA MEETING 参加レポート

HAC 乗員組合員

2005年6月7~8日にカナダのオタワで開催された IFALPA INDUSTRIAL(IND) COMMITTEE MEETING に参加させていただいたので、感想を中心にレポートします。より詳しい報告は日乗連 IND 委員会からの報告書を参照お願いします。

今回私がこの MEETING に参加させていただいたきっかけは、数ヶ月前、日乗連にてほんの軽い気持ちで「海外での会議などに参加するなどうらやましいですねー」と言った一言からでした。実際に世界の流れや現状を直に感じながら議論するということに大変興味があったものの、自分にそんなスキルがあるなど思ってもおりませんし、国際線どころか本州さえ飛ばない HAC 乗員の私には別の世界に思えていた為の正直な一言でした。ところが一ヶ月前の5月上旬、何の前触れもなく「カナダに行ってみないか」との連絡があり、突如行かせて頂けることになったのです。スキル抜きであいつやる気だけはありそうだから・・・という配慮からだったと思います。

しかし行かせて頂けるのはとても嬉しかったのですが、それからは不安の毎日。会議の内容どころか IFALPA 自体あまり知らない私が、会議資料を目に出来たのは出発の5日前。結局分からない単語を調べるので精一杯。どうなることやらで出発日を迎えてしまいました。ちなみに IFALPA に対しては、単なる組合の集まり? ぐらいにしか考えていなかったのですが、ICAO のオブザーバーとして提言を行い、ANNEX や PANS の改定にも影響を及ぼすほどの組織だとは知りませんでした。また今回の INDUSTRIAL(IND) COMMITTEE は働く者の環境、いわゆるソフト面の現状と問題点を議論し、皆の問題として考えていこうという場であるとのことでした。

ヴァンクーバーでの乗り換えを一回し、約17時間かけオタワに到着。ホテルに入ったのは現地時間の23時を回っていました。ホテルのフロントで会議予定の情報をもらい確認。翌日は朝10時から一日中、2日間びっしりの会議。開催地にもよるのでしょうか、IFALPA に出られている方はハードなスケジュールをこなしてこられたんだと認識しました。

翌朝から始まった会議には、主催国であるカナダを初めとしてアメリカ、チリ、ドイツ、イギリス、スイス、南アフリカなど文字通り世界中の ALPA 協会から約35人程の参加がありました。ただし以外だったのはアジアからは、日本と香港のみ。敢えて分かりやすい表現を使えば白人以外は私たち二人だけ。議論内容が技術的なものであればもっと参加があるそうです。

議論は英語で行われます。正直私レベルだと、あれ? いつ議題が変わったの? という感じでした(折角行かせていただいたのに申し訳ありません)。ただ国を超えて就職することに違和感のない彼らからすれば、英語の話せないラインパイロットなどいないと思っているのかも知れません。

(裏面へ)



会議は用意されていたレジメ約 21 項目及び特別レポートの発表などが中心で、大まかな説明がなされた後、皆で意見を出し合う形で進められました。日本からの現状報告については、JAL の勤務裁判における勝利を皆が喜んでくれるなど、前記した通り皆の問題として考えている雰囲気でした。逆に他国の現状を聞くにあたり、より厳しい労務対策をされているエアラインや逆に組合統合を先に進め、経営に対抗しようとしているエアラインなど、日本ではなかなか情報が得られない内容のものも少なくありませんでした。

そして聞いているうちにそれは決して対岸の火事ではないと感じました。勿論、社会構造や環境そして文化が大きく違うため全てではないかも知れませんが、企業合併や子会社化、勤務問題や年金問題と、形は少し違って日本でも起こっている問題が世界でも同じように起こっている。いや逆に世界で起こっていることが、日本でも行われようとしている、と言ったほうが正しいかも知れません。その意味で、世界との情報交換や連携がこれからの動きを推測し、対抗する手段の基となり、大変役に立つものであると感じました。また世界の仲間と繋がりを維持することが問題発生時の強い力になるのではと感じました。

今回特別レポートの中にローコストエアラインのレポートがありました。皆さんもご存知の通り、そのシェアは上昇の一途です。特に中国やインドは航空需要が爆発的な伸びを示しており、この傾向が顕著だという報告でした。これらの動きは航空業界の形そのものを変える勢いですが、日本とフランスは高速鉄道網の発達や規制、及び既存エアラインの有利性の為、さほど大きな割合を示していないように見えます。しかしながら全く新しい考えの労働力によるこれらローコストエアラインに対して明確な対応は、今回の会議でも打ち出せない現状でした。今は賃金水準の低い国の乗員も、世界的な乗員不足という状況において、日本に押し寄せるといったことはありませんが、それらの国々の成長率が下がり始めた場合、今まで通りかどうかはわかりません。また、まだ現実味は少ない話かも知れませんが、航空機国籍の問題が ICAO でも話され始めたと聞きました。アライアンスの航空機国籍とその使用の方法が変わり、海運業界のように日本人乗員が珍しいという自体になってしまうのではという危惧はぬぐえません。

給与も会社の規模も日乗連加盟では最下位レベルの私が言うのは失礼かも知れませんが、大手会社組合が自分の会社及び自組合員の環境のみを考え行動していれば安泰という時代は終わったと思いました。もちろん子会社の乗員も自分達のことだけでも精一杯ですし、親会社の不採算路線請負業では限界があります。親、子、ライバル、統合相手などの垣根を超えて、日本の乗員としての共通の問題意識について突っ込んだ議論を加速しなければならない時にきているのではないかと感じさせられました。

私事ですが、最近自分の仕事に対してモチベーションを維持することに大変悩んでおりました。自分の会社の将来性や、JAL グループにおける存在感、事業計画に対する真剣な対応等、現状を客観的に判断した時、目標を失い、時には組合活動により会社をよくしていこうというよりは、違う努力によりパイロットとして次機種にチャレンジ出来るより良い環境の会社移るほうが得策かな？なんて考えたこともありました。今回このような会議に行かせていただいた乗員としての自分のスキルUPの必要性を再認識し、それが次なる目標の一つになりモチベーション構築に大変役に立ちました。このような私でも送り出してくれた日乗連や私をフォローして下さった方々には心より感謝しています。また機会があればこのような場に参加したいと思いました。少し生意気な文もありますが、これを読んで下さった方の中から国際活動に興味を持たれ、「君でも行けたのなら次回はおれ(わたし)が行ってみようか」と思って下さる方がおられれば幸いです。

さあー レポートも終わったし、英会話教室の申込みにもいっくかな・・・。

以上